

平成30年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座

「第5回センター研修 兼 西北地区研修」

平成30年8月20日(月) 会場名: 鱒ヶ沢町山村開発センター
受講者数 53名

今回の研修講座は、当センターが行う「センター研修」と県内6地区で行う「地区研修」を合同で開催することとし、西北五つがる社会教育担当者協議会と鱒ヶ沢町教育委員会が共催するスタイルで実施しました。

講師には、山梨大学 非常勤講師 や 山形大学 客員准教授も務めながら、やまなし大使でもある シナプテック株式会社 代表取締役社長 戸田 達昭 氏をお招きし、民間の視点で行政や様々な主体と連携・協働を図る重要性を、豊富な経験と実践をもとに御講義いただきました。

生涯学習・社会教育関係職員や関係団体等の職員を主な対象としている研修講座ですが、今回は『**未来のまちづくりをデザインする講座**』というコンセプトにしたことで、日頃、県内各地でまちづくりの活動をしている実践者やこれから何かアクションを起こしてみたいと考えている方、さらには地域活動に参加する高校生も巻き込んで、幅広い年齢層と様々な立場の人たちが、同じテーブルでディスカッションするという初めての試みでもありました。



《 戸田 氏 》

行政や企業、NPO法人等、様々な主体が目的を共有して対等な立場で課題解決に当たることを「**マルチステークホルダーとの協働**」と戸田氏は述べています。その意味でも、今回の研修講座は、講義と演習を通じて『**マルチステークホルダーとの協働**』に向けた貴重な第一歩になったと考えています。

1. 講義：「協働によるまちづくり」 講師：戸田 氏

「Go Change! Go Innovation!!」・「まちづくりはひとづくりから」というフレーズで始まった講義では、①「社会的変化に伴う協働の必然性」②「コーディネーターの重要性」③「インプット・アウトプット・アウトカム設計の重要性」④「CSRからCSVへ」を主なポイントとして様々な事例と合わせてお話しされ、受講者の誰もが「自分も何かしたい!」という行動意欲を高揚させるとてもエネルギーが湧いたものでした。

・インプット… 体験する。知識を得る。
・アウトプット… 自身の体験・学習し得た知識を、成果や次の結果につなげる。
・CSR… 企業が果たすべき社会的責任。

直面する課題に「少子高齢化」、「人口流出」、「担い手不足」、「コミュニティ力の低下」を挙げ、その解決のため産・学・官・民の協働体(=コンソーシアム)を構築し、実際に取り組んだ際の資料を提示しながら御説明くださいました。特に、『その時に、そこに、誰がいるのか』を認識することや、『支援してやろう』というスタンスでは失敗を招く。コーディネーターというよりもプレイヤーという意気込みでなければ人を巻き込むことはできない。』など、『協創型』で協働により価値を創造すること(=CSV)が大切であるとおっしゃっています。

また、山梨県の活動を例にして、様々な人たちを巻き込む「取り組みの仕掛け」も紹介してくださいました。活性化のカギとして、「文化振興」、「まちづくり」、「公共福祉」のカテゴリーの中心に『創業報県』を据え、起業ビジネスとも関連させた実践例は、まちづくりの視点を広げる大きなヒントにもなりました。

アウトカム設計の重要性については、『次代の担い手たる、起業家精神を持った、社会を拓く人材を生み出す』

《 受講者の様子 》



にあたり、「学校教育と社会教育の相互作用とフィードバック」にも触れられました。「なぜ学ぶのかを見つける」、「評価する」、「失敗してもいい」というポイントから、ゴールとなるアウトカムをどこに設定するかが大切で、この考え方が『方法論』を示す上でも最も重要だとしています。

高齢者の多い地域で開発した『お弁当』を例に挙げて、あく

までもアウトプットは『お弁当づくり』ではあるけれど、アウトカムは全員違って構わないとしています。スーパーは「売れること」、住民は「安全で健康な食事ができること」、まちづくりに関わる人たちは「地域が活性化すること」で、アウトカムまで無理に全て共有しようとせず、個々のアウトカムを意識してその役割を担ってもらうことが大事だという実例でした。

講義のまとめにあたっては、「自分がまず楽しむ」、「向かい合うのではなく、同じ目的のもと、横に立って会話する」、「個にスポットを当てる」、「単なる否定はNG。肯定して返す」、「無いならつくる」、「有言即行！」というメッセージをいただきました。そして、『どうありたいかが大事（＝何を望んでいるのか）』で、全員がプレイヤーだという意識で頑張るって欲しいというお話に、受講者のみなさんも大きく頷いていました。

2. 演習：「マルチステークホルダーとの協働で地域をつくる」 ファシリテーター：戸田 氏

演習に入る前に、県立鱒ヶ沢高校の生徒によるS. B. P (Social Business Project) の活動と、その活動の中でプロデュースしたセレクトギフト商品“鱒の味”を紹介していただきました。この実践も「まちづくりのデザイン」においては大変参考となる事例で、このような活動をしている高校生が県内にいることを知ってもらう機会にもなりました。

《 演習の様子① 》

戸田氏から与えられた演習テーマは、「**これからの青森を協働により、元気に盛り上げる！**」でした。“世界を変える一歩目とするためのワークショップ”になることを念押ししつつ、演習の手順について説明がありました。



3段階に整理し【序盤：現状を把握する】⇒【中盤：課題解決のための方策を考える】⇒【終盤：自分は何をするのかの明確化】で、特徴的なのは『自分は何をするのか、それをどのようにして実現させるのか』を明確にすることが示されました。グループディスカッションでも、発想が大きく飛躍して意欲がどんどん高まり、【終盤】の具体的な実行プランでは『自分はこんな事をしたい！』という積極的な話し合いがされて、大変盛り上がりました。

《 演習の様子② 》



1日の講義と演習を通して、印象的だったのは「単なる否定はNG」、「無いならつくりよう」、「有言即行！」というフレーズから、『自分はどうありたいか』を考え、大切にしたいという言葉でした。

マルチステークホルダーとの協働により“化学反応”が起き、思いも寄らないアイデアが湧き出てくるという体験をお互いに実感できた研修講座となりました。

3. 受講者の感想

- ・もしかしたら、自分も何かできるのではないかと、思わせる講師の講義が素晴らしかった。
- ・「有言即行！」という言葉が心に響いたので、何事にもチャレンジしてみようと思いました。
- ・改めて地域の課題について見つめ直すことができ、とてもいい経験になりました。今から実践できることは進んで取り組んでいきたいです。
- ・「無いからできない」のではなく、「無いならどうやっていくか」という姿勢が求められるのだと思った。